

途上国の子供に楽器

不用品回収まとまる

浜松のNPO



浜松市西区のNPO法人「エコライフはままつ」(荒木信幸理事長)が不用になった鍵盤ハーモニカとリコーダーを市民から集めて、発展途上国の子供たちに贈るプロジェクト

で、昨年から集めていた楽器がまとまった。アフリカ南東部のマラウイに送るため、このほど、国際協力機構(JICA)に託した。プロジェクトは10年目を迎え、計5カ国に通算11回目の贈呈となる。今回、集まったのはマラウイに贈られる市民から届いた鍵盤ハーモニカとリコーダー―浜松市西区

鍵盤ハーモニカ98台、リコーダー35本で、マラウイの地方都市に送られ、8〜15歳の子供たちが放課後の音楽クラブで活用する予定。同NPOは資源の有効利用を図るため、2008年からホームペーシヤイベントでブースを構えて楽器の提供を呼び掛けてきた。鍵盤ハーモニカやリコーダーは電気やメンテナンスが不要で、長期的にリユース(再使用)が可能なため、支援に適しているという。これまで全国各地から鍵盤ハーモニカ699台、リコーダー1621本が寄せられ、マラウイのほかボツワナ、グアテマラなどに贈呈した。高根美保事務局長は「リユースの輪が広がっていることが実感できる。みなさんの善意に感謝し、続けていくことが大切」と話した。(浜松総局・小糸恵介)